

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成19年3月29日(2007.3.29)

【公開番号】特開2004-290708(P2004-290708A)
 【公開日】平成16年10月21日(2004.10.21)
 【年通号数】公開・登録公報2004-041
 【出願番号】特願2004-216202(P2004-216202)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4
 A 6 3 F 7/02 3 0 4 Z
 A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成19年2月5日(2007.2.5)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

遊技盤(5)上に配設され遊技者に有利な状態と不利な状態とに変化可能な可変入賞装置(18)と、この可変入賞装置(18)を制御する主制御手段(50)と、この主制御手段(50)とは別基板構成とされ且つ主制御手段(50)から一方向通信にて送信される制御コマンドを受信する副制御手段(60,70~72)とを備えた弾球遊技機(2)において、

前記制御コマンドは複数バイト分のコマンドデータからなり、

前記主制御手段(50)は、副制御手段(60,70~72)に制御コマンドを送信中にコマンドデータがある状態で主電源が落ちた場合に未送信のコマンドデータを記憶保持可能なバックアップ記憶手段(39a)と、主電源の復帰後にバックアップ記憶手段(39a)に記憶している未送信のコマンドデータを読み出すデータ復帰手段(39f)とを有し、

前記主制御手段(50)から副制御手段(60,70~72)に制御コマンドを送信中に未送信のコマンドデータがある状態で主電源が落ちた場合に、前記主制御手段(50)は、主電源の復帰後にバックアップ記憶手段(39a)に記憶されている未送信のコマンドデータをデータ復帰手段(39f)により読み出して送信し、

前記副制御手段(60,70~72)は、少なくとも主電源が落ちたときコマンドデータを記憶保持可能なデータ記憶手段(46a)を有し、主電源の復帰後に主制御手段(50)から追加的に送信される未受信のコマンドデータを受信済みのコマンドデータに組み合わせて制御コマンドを作成し、

前記副制御手段(60,70~72)により作成された制御コマンドが予め設定され記憶されている複数の制御コマンドのいずれにも該当しない場合には受信済みのコマンドデータを消去する、

ことを特徴とする弾球遊技機。

【手続補正2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0010
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

請求項 1 の弾球遊技機は、遊技盤上に配設され遊技者に有利な状態と不利な状態とに変化可能な可変入賞装置と、この可変入賞装置を制御する主制御手段と、この主制御手段とは別基板構成とされ且つ主制御手段から一方向通信にて送信される制御コマンドを受信する副制御手段とを備えた弾球遊技機において、制御コマンドは複数バイト分のコマンドデータからなり、主制御手段は、副制御手段に制御コマンドを送信中にコマンドデータがある状態で主電源が落ちた場合に未送信のコマンドデータを記憶保持可能なバックアップ記憶手段と、主電源の復帰後にバックアップ記憶手段に記憶している未送信のコマンドデータを読み出すデータ復帰手段とを有し、主制御手段から副制御手段に制御コマンドを送信中に未送信のコマンドデータがある状態で主電源が落ちた場合に、主制御手段は、主電源の復帰後にバックアップ記憶手段に記憶されている未送信のコマンドデータをデータ復帰手段により読み出して送信し、副制御手段は、少なくとも主電源が落ちたときコマンドデータを記憶保持可能なデータ記憶手段を有し、主電源の復帰後に主制御手段から追加的に送信される未受信のコマンドデータを受信済みのコマンドデータに組み合わせて制御コマンドを作成し、副制御手段により作成された制御コマンドが予め設定され記憶されている複数の制御コマンドのいずれにも該当しない場合には受信済みのコマンドデータを消去するものである。

【 手続補正 3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 3 】

ここで、前記主制御手段は、主電源が落ちた状態においても少なくとも未送信のコマンドデータを記憶保持可能なバックアップ記憶手段と、主電源の復帰後にバックアップ記憶手段に記憶している未送信のコマンドデータを読み出すデータ復帰手段とを有している。そのため、副制御手段において、主電源が落ちたために生じた未送信のコマンドデータをバックアップ記憶手段により主電源が落ちた状態においても確実に記憶保持でき、しかも主電源の復帰後には、データ復帰手段によりその未送信のコマンドデータが読み出されるため、未送信のコマンドデータを確実に送信することができる。

【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 5 】

また、前記副制御手段は、少なくとも主電源が落ちたときコマンドデータを記憶保持可能なデータ記憶手段を有し、主電源の復帰後に主制御手段から追加的に送信される未受信のコマンドデータを受信済みのコマンドデータに組み合わせて制御コマンドを作成する。このとき、その作成された制御コマンドが、予め設定され記憶されている複数の制御コマンドのいずれにも該当しない場合には受信済みのコマンドデータが消去される。

【 手続補正 5 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 6

【 補正方法 】 削除

【 補正の内容 】

【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 7

【 補正方法 】 削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

また、前記主制御手段は、主電源が落ちた状態においても少なくとも未送信のコマンドデータを記憶保持可能なバックアップ記憶手段と、主電源の復帰後にバックアップ記憶手段に記憶している未送信のコマンドデータを読み出すデータ復帰手段とを有するので、副制御手段において、主電源が落ちたために生じた未送信のコマンドデータをバックアップ記憶手段により主電源が落ちた状態においても確実に記憶保持でき、しかも主電源の復帰後には、データ復帰手段によりその未送信のコマンドデータが読み出されるため、未送信のコマンドデータを確実に送信することができる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

さらに、前記副制御手段は、少なくとも主電源が落ちたときコマンドデータを記憶保持可能なデータ記憶手段を有し、主電源の復帰後に主制御手段から追加的に送信される未受信のコマンドデータを受信済みのコマンドデータに組み合わせて制御コマンドを作成するので、受信済みのデータを再受信することなく、未受信のコマンドデータだけを追加的に受信するだけで、制御コマンドを効率よく作成することができる。このとき、その作成された制御コマンドが予め設定され記憶されている複数の制御コマンドのいずれにも該当しない場合には受信済みのコマンドデータを消去する。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】削除

【補正の内容】